

## 「要町あさやけ子ども食堂」で

### ワイワイがやがやみんなでごはん

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 栗林知絵子

厚労省のデータによると、子どもの貧困率は、1985年で10.9%、2014年には16.3%と増加しています。しかし、子どもの生活環境に課題があってもその実態はつかみにくくわかりにくいのが現状です。どんな家庭に育っても、子どもが暮らす地域に子どもと大人の出会いの場と必要な支援ができれば、その子の未来は広がることと思います。

今回はプレイパーク活動の中で出会った子どもを支援したことをきっかけに、「食べ物」は子どもと大人をつなぎ、人と人をつなげることができると確信したことから「子ども食堂」を始めた「NPO法人豊島 wakuwaku ネットワーク」の取り組みをご紹介します。

#### つぶやきから始まった団らんの場づくり

ここはひとりぼっちで夜ご飯を食べている子やコンビニ弁当を食べている地域の子と一緒、テーブルを囲み団欒を共にする食堂で、人と人が出会う場です。

食堂を始めた理由は3つあります。一つ目は、3年前地域の少年が無料塾に通い、無事に都立高校合格を果たしました。毎日関わるうちに少年は、毎日母親からもらう500円の範囲内で弁当やジュースを購入して独りで食べていることを知りました。ひとり親家庭で育ち、母は昼夜のダブルワークで子育てをしていることも知りました。

二つ目は、子ども食堂店主の山田和夫さんが、大田区の子ども食堂「だんだん」で、朝ごはんを食べてこない子どもや満足に食事ができていない子どもがいることを聞き、自分も子ども食堂をやってみようかなあ・・・とつぶやいたからです。

三つ目は、私自身が山田さんのことをほっとけなかったのです。以前、奥様（故）は地域の仲間と自宅で「こんがりパン屋」をやっていました。山田家は3世代同居の賑やかな大家族でした。ところがいろいろな事情が積み重なり、3年前から山田さんは独り暮らしです。おせっかいな私は山田家が昔のように賑やかになるといいな～と思っていたのです。

この3つの理由は、どこにでもある問題かもしれませんが、しかし「知人の抱える問題」として問題を共有したことで子ども食堂は容易に実現しました。

#### つながりあうことで未来が開ける

「山田さん、食堂を誰と一緒にやりたいですか？」

と尋ねると、Kさんのお名前が飛び出しました。Kさんは他界した奥様の親友で、子育て時代、PTAからのご縁だそうです。私はKさんに子ども食堂の趣旨や、これまでの経緯を説明し協力を仰ぎました。次に相談したのは私の友人です。以前、私が自宅で開催していた料理教室の仲間です。こうして昨年春、山田店主とスタッフ3名で子ども食堂がオープンしました。

開店日時は毎月2回、第1・3水曜日の5時30分から7時です。果物付きの定食が300円です。

スタッフ、ボランティア、料理したい子どもが3時に集まりお料理スタート！いつもはインスタント食品やコンビニ食品を食べている子も、この日は安全で手をかけて創る温かいご飯を食べてほしいというスタッフの思いから、調味料や油の質もこだわっています。有機農法の農家さんからは季節野菜、遠方の方からお米、ご近所スーパーからは果物、お寺からはお供えのお菓子が届きます。「地域の子どもを地域で支えたい」に賛同した方から多様な支援が集まります。

料理をしながら話が盛り上がり、笑い声が響いています。おいしいにおいが漂ってきます。まだ5時だというのに「いいですか～？」と親子連れの声が聞こえると、慌てて子ども食堂開店です。

#### 子ども食堂の一日

近所のお独り暮らしの奥さんお手伝いに来てくださり、またひとり、またひとりとお客さんがやってきて、だんだん賑やかになっていきます。

はじめはパン屋



一人で来ても、親子でも、どなたでも300円で食事ができます。みんなでワイワイ食べる食事は、やっぱり、おいしい！



大きい子も小さい子も集える山田さんち。2階のお部屋からの眺めは最高！

の店舗のみをお借りする予定でしたが、山田さんは寝室以外お部屋を全て子どもたちに開放してくださいました。ごはんが終わると、2階のお部屋でお化



家の前では、ケンケンパーやチョークで落書きなどが自然に生まれていて、昔の路地遊びを思い出します

け屋敷ごっこが始まり、押し入の中は秘密基地、1階のお部屋では紙芝居のはじまりはじまり～。お外の路地ではチョークで落書きやケンケンパーの元気な声が響いています。楽しい時間がずっと続いてほしいのですが、30食のごはんも売り切れて、そろそろ閉店です。「さあ。みんな掃除するよ～」の掛け声がかかると、みんなで家じゅう雑巾がけです。スタッフはお皿を片づけて、残った野菜はひとり親家庭のお母さんのお土産にどうぞ。（住宅街の一軒家なので）ご近所さんに迷惑にならないように、静かに帰ってね！今日も楽しい子ども食堂にさよならです。

さて、部屋に戻ってみると・・・おとなはほっと一息、焼酎片手に「おとな食堂」の時間です。山田さんもついのお酒が進みます。

こども食堂は、人と人が繋がる場にもなっているようですが、当初の計画では孤食の子ども対象の食堂でした。

#### 大人と子どもが理解しあえる場に

今でも生活保護家庭の子ども、ひとり親家庭の親子、不登校の子どもなど困難を抱える子どもも参加していますが、経済的に困ってない親子も歓迎して、ワイワイがやがやご飯を食べています。

食堂で出会ったおとなに子どもの貧困問題が身近に存在することや、子どもの自己責任ではないことを伝えて問題を可視化し、ネットワークの輪を広げる機能も担っています。

最近では遠方からも子どもの貧困問題に関心を持つ方、子どものために何かできることはないかと見学やボランティアが後をたちません。しかし地域に帰って何か始めたいと思っても、子ども食堂を開店することはかなりハードルが高いようです。

そこで実現の可能性が高いモデル支援「おはようバナナ」を提案させていただきます。「おはようバナナ」は小学生登校時のピンポイント支援ですので、少し時間に余裕のある地域人材と安価なバナナと小学校近くの昼半分の場所さえあればどこでもできる支援です。

昨今、朝ごはんを食べずに登校する子どもが増えています。「親が起きられない」「食べるものがない」「両親が共働きで、朝早くに出かけてしまう」など理由は様々です。

#### 「おはようバナナ」で、新しい出会いを

朝ごはんを食べていない全ての子どもが、バナナでお腹を満たし、「行ってらっしゃい」と地域の人に声をかけられて学校に行く。通りがかりの中高生も、ワカモノも、格差も家庭環境も取っ払い地域まるごと朝のスタートを支援できます。お腹と心をちょっと満たすだけでも、子どもの一日の学びと遊びが充実することでしょう。

バナナで繋がり孤立している「知らない子ども」が「知ってる子ども」へと意識が変わるとき、様々な問題も「他人の問題」から「ほっとけない問題」へと意識が変わるかもしれません。

まちのおとなと子ども、ワカモノがバナナでつながれば、子どもの虐待や孤立を防ぎ、災害時はワカモノが高齢者を救助してくれるかもしれません。

豊島子どもWAKUWAKUネットワークの仲間は、こんな妄想を語り合う時間が大好きです。想像しただけでワクワクします！支え、支えられる仲間がエンパワメントできる場、人と人が繋がる場を共有し、交流の輪が大きなネットワークになるときに、子どもが変わり、未来を変えていくのでしょうか。

今年、厚生労働省はわが国の子どもの相対的貧困率が16.3%と発表しました。つまり6人に1人のこどもが貧困状態です。お金がないことで自己を肯定できない子どもがいる状況に何を思いますか？

どうしていいかわからないけど、何かしたいと思ったら、まずは子ども食堂にお越しください。山田さんが、素敵な笑顔で迎えてくれます。



ご飯のあとは、お片づけ。帰る前はみんなで掃除をします